

2018年3月期 第1四半期 決算説明会



CAMRY Hybrid

トヨタ自動車株式会社
2017年8月4日

将来予測・インサイダー取引について

本資料には、当社(連結子会社を含む)の見通し等の将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報を基礎とした判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来における当社の実際の業績と大きく異なる可能性があります。なお、上記の不確定性および変動可能性を有する要素は多数あり、以下のようなものが含まれます。

- ◆日本、北米、欧州、アジアおよび当社が営業活動を行っているその他の国の自動車市場に影響を与える経済情勢、市場の需要ならびにそれらにおける競争環境
- ◆為替相場の変動(主として日本円、米ドル、ユーロ、豪ドル、ロシア・ルーブル、加ドルおよび英国ポンドの相場変動)および金利変動
- ◆金融市場における資金調達環境の変動および金融サービスにおける競争激化
- ◆効果的な販売・流通を実施する当社の能力
- ◆経営陣が設定したレベル、またはタイミングどおりに生産効率の実現と設備投資を実施する当社の能力
- ◆当社が営業活動を行っている市場内における法律、規制および政府政策の変更で、特にリコール等改善措置を含む安全性、貿易、環境保全、自動車排出ガス、燃費効率の面などにおいて当社の自動車事業に影響を与えるもの、または現在・将来の訴訟やその他の法的手続きの結果を含めた当社のその他の営業活動に影響を与える法律、規制および政府政策の変更など
- ◆当社が営業活動を行っている市場内における政治的および経済的な不安定さ
- ◆タイムリーに顧客のニーズに対応した新商品を開発し、それらが市場で受け入れられるようにする当社の能力
- ◆ブランド・イメージの毀損
- ◆仕入先への部品供給の依存
- ◆原材料価格の上昇
- ◆デジタル情報技術への依存
- ◆当社が材料、部品、資材などを調達し、自社製品を製造、流通、販売する主な市場における、燃料供給の不足、電力・交通機能のマヒ、ストライキ、作業の中断、または労働力確保が中断されたり、困難である状況など
- ◆生産および販売面への影響を含む、自然災害による様々な影響

以上の要素およびその他の変動要素全般に関する追加情報については、当社の有価証券報告書または米国証券取引委員会に提出された年次報告書(フォーム20-F)をご参照ください。

将来予測・インサイダー取引について

インサイダー取引に関するご注意:

企業から直接、未公開の重要事実の伝達を受けた投資家(第一次情報受領者)は、当該情報が「公表」される前に株式売買等を行うことが禁じられています(金融商品取引法166条)。同法施行令により、二以上の報道機関に対して企業が当該情報を公開してから12時間が経過した時点、または、証券取引所に通知しかつ内閣府令で定める電磁的方法(TDnetの適時開示情報閲覧サービス)により掲載された時点を以って「公表」されたものとみなされます。

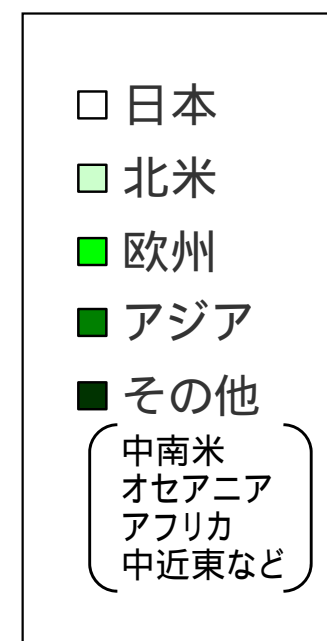
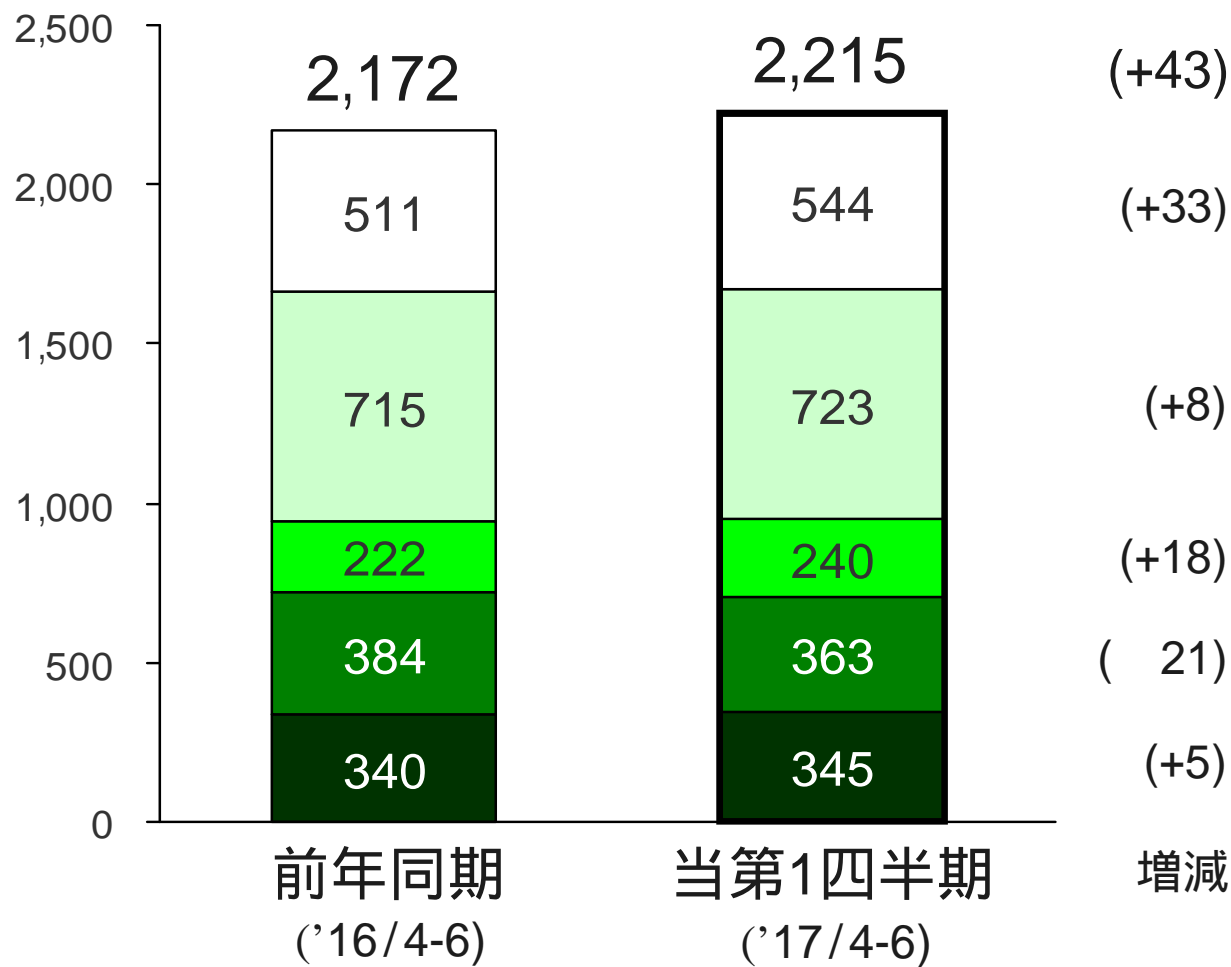
2018年3月期 第1四半期 決算説明会

2018年3月期 第1四半期 実績

2018年3月期 見通し

連結販売台数

(単位:千台)



グループ 総販売台数(小売)	2,529	2,590	+61
-------------------	-------	-------	-----

連結決算要約

(単位: 億円)

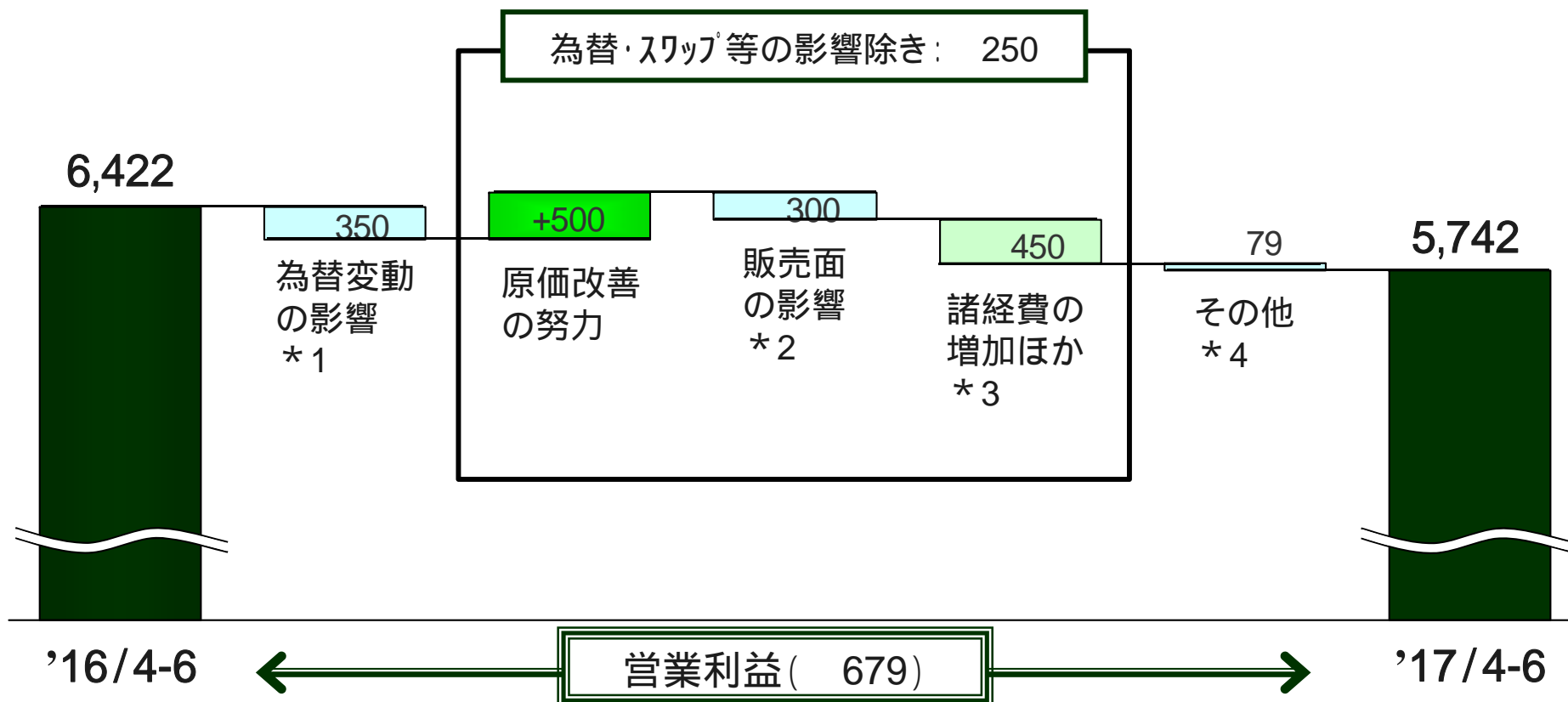
	当第1四半期 ('17/4-6)	前年同期 ('16/4-6)	増減	
売上高	70,476	65,891	+4,584	+7.0%
営業利益	5,742	6,422	679	10.6%
営業利益率	8.1%	9.7%	-	-
税金等調整前 当期純利益	6,793	6,770	+22	+0.3%
当期純利益 ^{*1}	6,130	5,524	+605	+11.0%
当期純利益率 ^{*1}	8.7%	8.4%	-	-
1株当たり利益 ^{*2} (希薄化後)	202.84円	179.11円	+23.73円	-
為替 レート	米ドル ユーロ	111円 122円	108円 122円	+3円 ±0円

*1. 当社株主に帰属する当期純利益

*2. 当社普通株主に帰属する当期純利益

連結営業利益 増減要因

(単位:億円)



*1.内訳		*2.内訳		*3.内訳		*4.内訳	
輸出入等の外貨取引分	+350	海外子会社の	+50	台数・構成	+100	労務費	150
-米ドル	+300	営業利益換算差		金融事業	100	減価償却費	100
-ユーロ	±0	その他	750	その他	300	研究開発費	50
-その他通貨	+50	(外貨建引当の期末換算差ほか)				経費ほか	150
						スワップ評価損益ほか	79

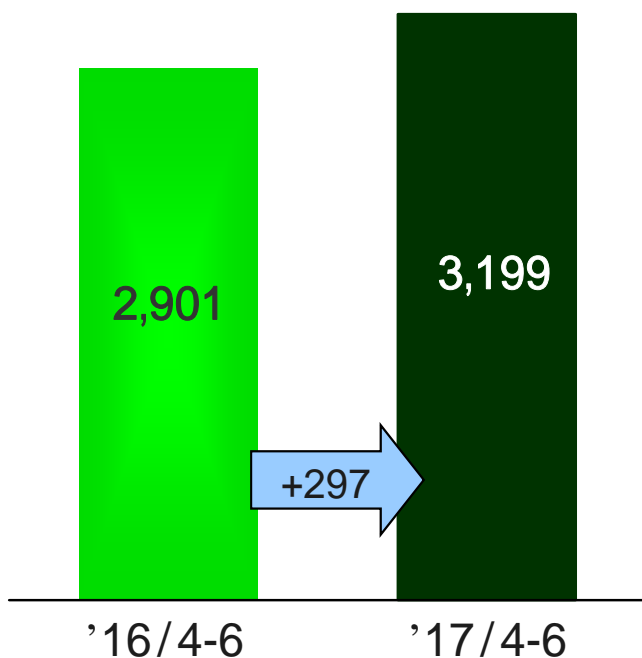
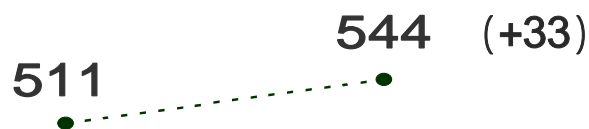
先期末より、「為替変動の影響」に、海外子会社の営業利益換算差や外貨建引当の期末換算差等を含めています。

所在地別営業利益：日本

■ 営業利益(億円) *

----- 連結販売台数(千台)

* 金利スワップ取引などの評価損益を除く



営業利益率	'16/4-6	8.6%	'17/4-6	8.7%
-------	---------	------	---------	------

金利スワップなどの評価損益を含む営業利益(億円)	'16/4-6	2,903	'17/4-6	3,192
--------------------------	---------	-------	---------	-------

営業利益*

3,199億円(前年同期比 +297億円)

・販売台数の増加や、原価改善の努力などにより増益



ルーミー

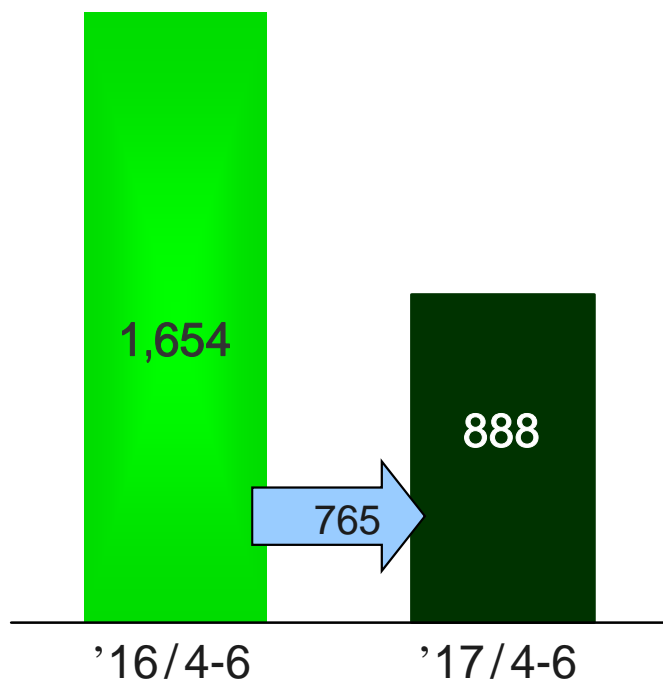


タンク

所在地別営業利益：北米

■ 営業利益(億円) *
 連結販売台数(千台)
 * 金利スワップ取引などの評価損益を除く

715 723 (+8)



営業利益率 6.5% 3.3%

金利スワップなどの評価損益を含む営業利益(億円) 1,714 892

営業利益*
 888億円(前年同期比 765億円)

・主に販売諸費用の増加などの影響により減益



CAMRY Hybrid

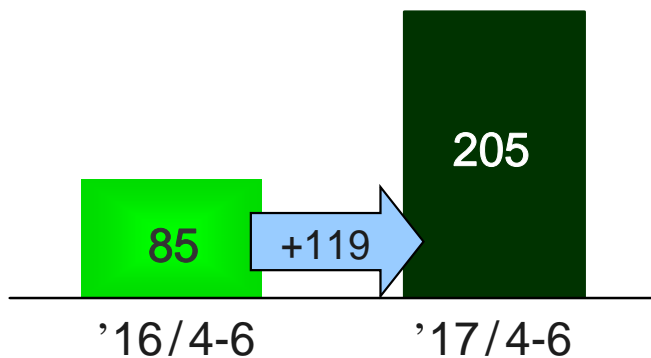
所在地別営業利益：欧州

■ 営業利益(億円) *
 連結販売台数(千台)
 * 金利スワップ取引などの評価損益を除く



営業利益*
 205億円(前年同期比 +119億円)

・販売台数の増加、原価改善の努力などにより増益



営業利益率	'16/4-6	1.4%	'17/4-6	2.7%
-------	---------	------	---------	------

金利スワップなどの評価損益を含む営業利益(億円)	'16/4-6	90	'17/4-6	203
--------------------------	---------	----	---------	-----



C-HR

所在地別営業利益：アジア

■ 営業利益(億円) *

----- 連結販売台数(千台)

* 金利スワップ取引などの評価損益を除く

384
363 (21)

1,246

1,028

217

'16/4-6

'17/4-6

営業利益率

10.5%

8.6%

金利スワップなどの
評価損益を含む
営業利益(億円)

1,274

1,043

営業利益*

1,028億円(前年同期比 217億円)

・為替変動の影響や、販売台数の減少などにより減益



AGYA

所在地別営業利益：

中南米・オセアニア
アフリカ・中近東

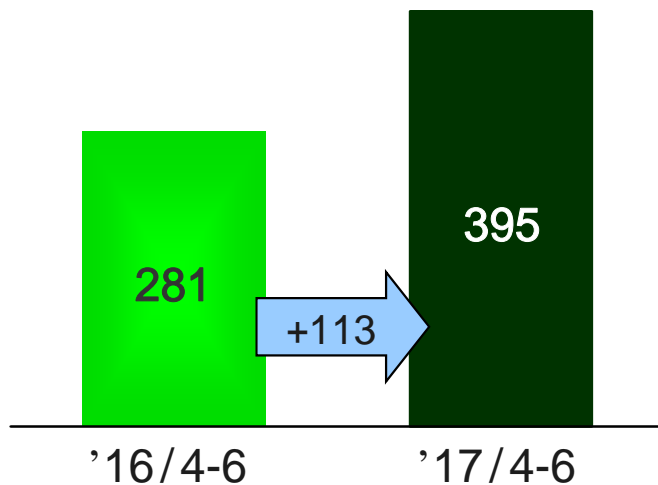
TOYOTA

■ 営業利益(億円) *
 連結販売台数(千台)
 * 金利スワップ取引などの評価損益を除く

340 345 (+5)

営業利益*
 395億円(前年同期比 +113億円)

・為替変動の影響や、販売台数の増加
 などにより増益



HILUX

営業利益率	'16/4-6	'17/4-6
	5.4%	6.5%

金利スワップなどの 評価損益を含む 営業利益(億円)	273	386
----------------------------------	-----	-----

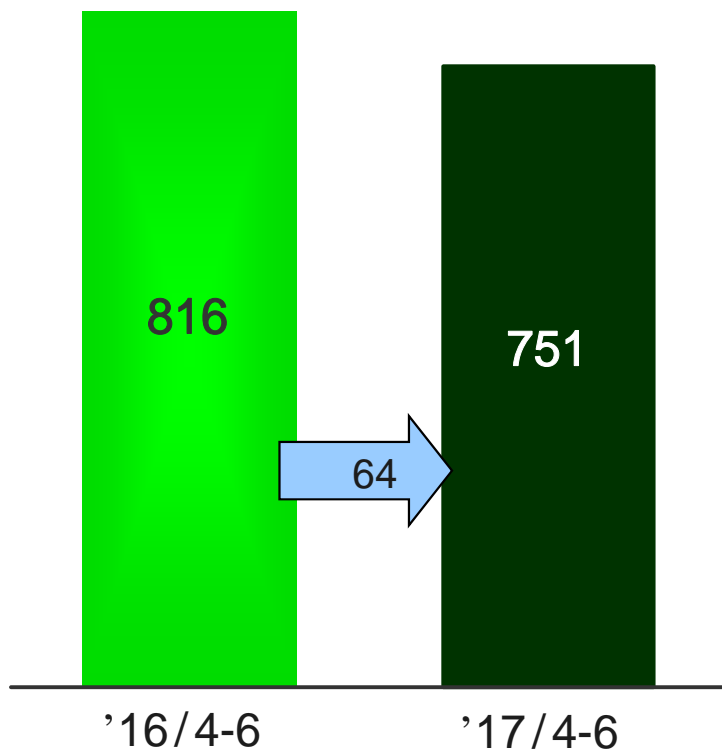
金融セグメント営業利益

■ 営業利益(億円) *

* 金利スワップ取引などの評価損益を除く

営業利益*
751億円(前年同期比 64億円)

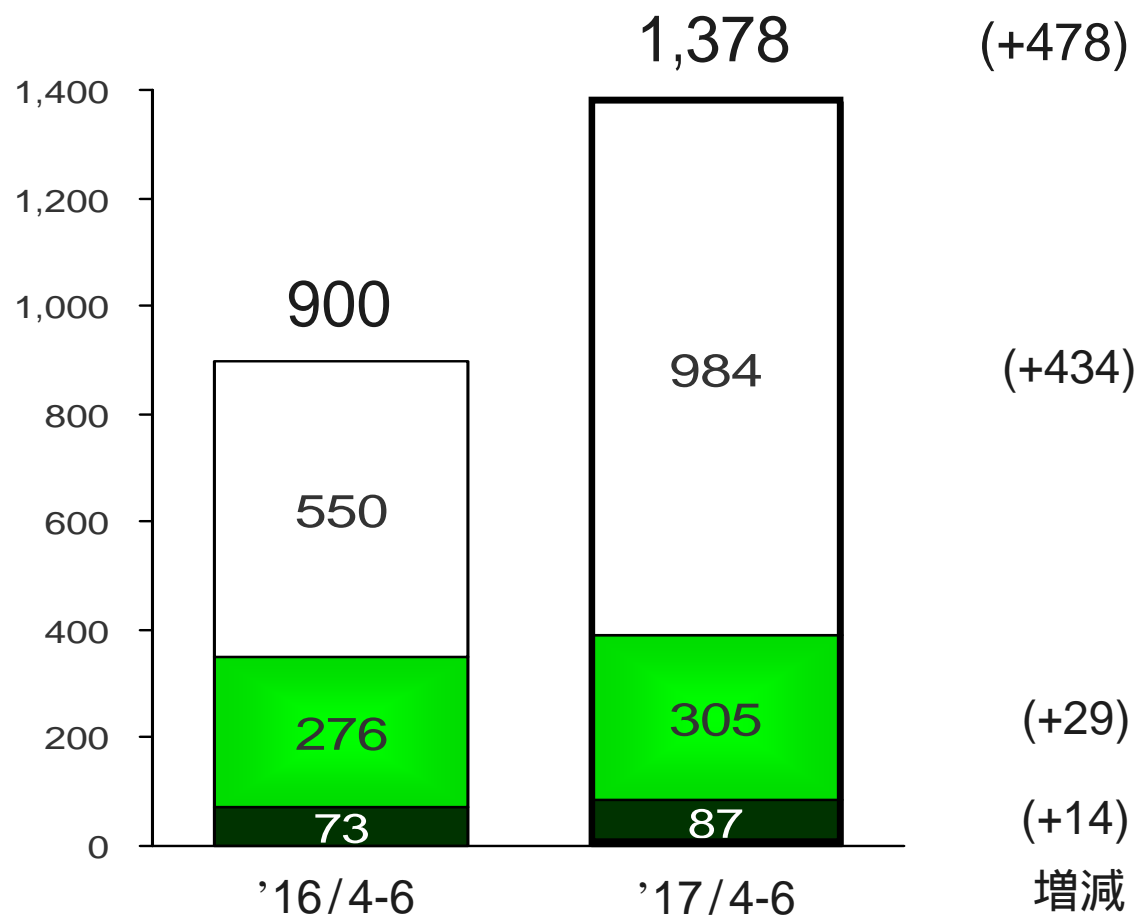
・融資残高が増加したものの、
貸倒コスト・リース車両再販コストの
増加により減益



	'16/4-6	'17/4-6	増減
営業利益	902	753	149
金利スワップ取引 などの評価損益	86	1	84
金利スワップ取引などの 評価損益を除く営業利益	816	751	64

持分法投資損益

(単位:億円)

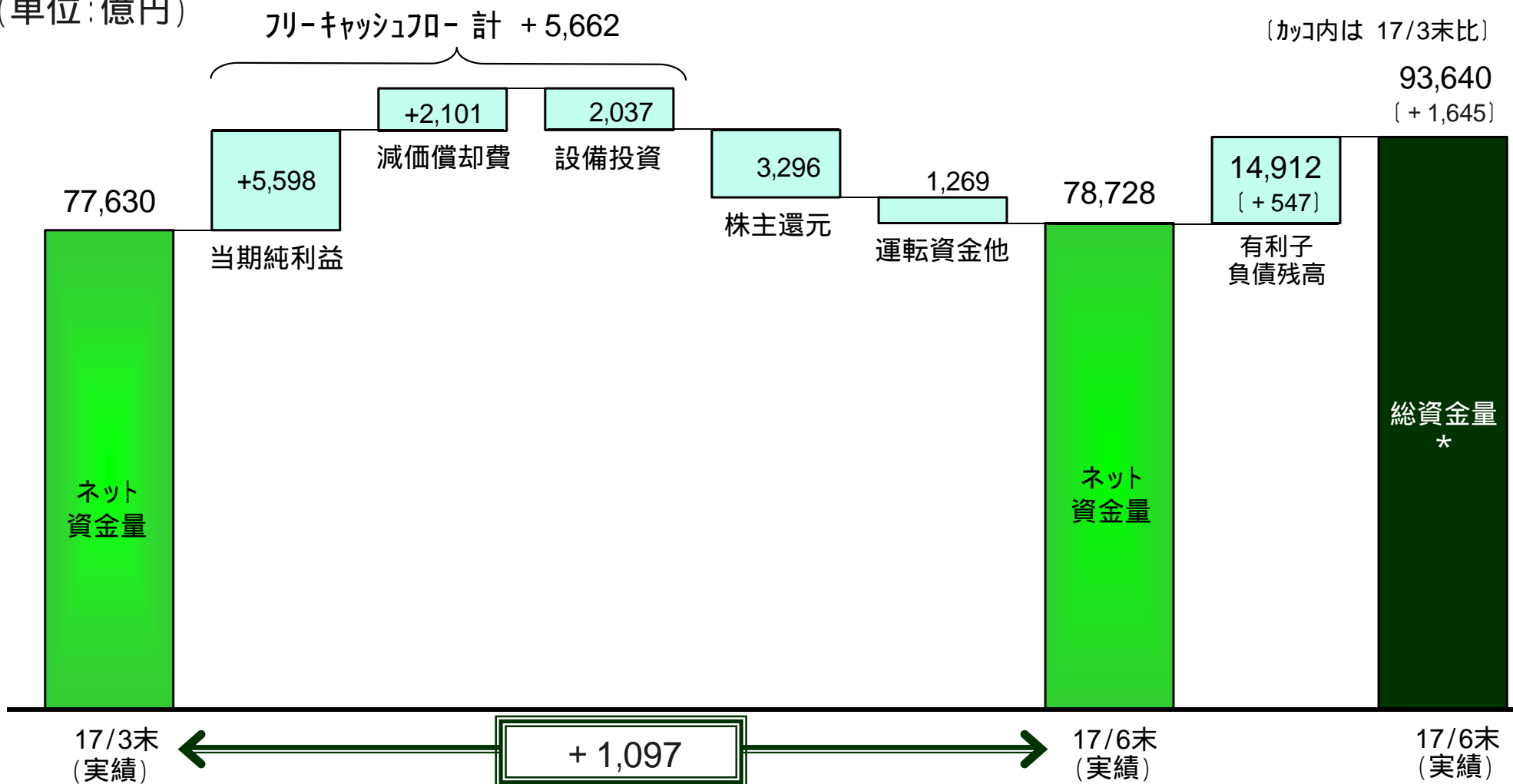


	16/1-3	17/1-3
小売台数 (千台)	291	296

連結資金量 (除く金融)

17/6末 ネット資金量 : 78,728億円 (17/3末比 + 1,097億円)

(単位:億円)



* 総資金量: 金融事業を除いた「現金及び現金同等物」「定期預金」「有価証券」「投資有価証券(除く株式)」等

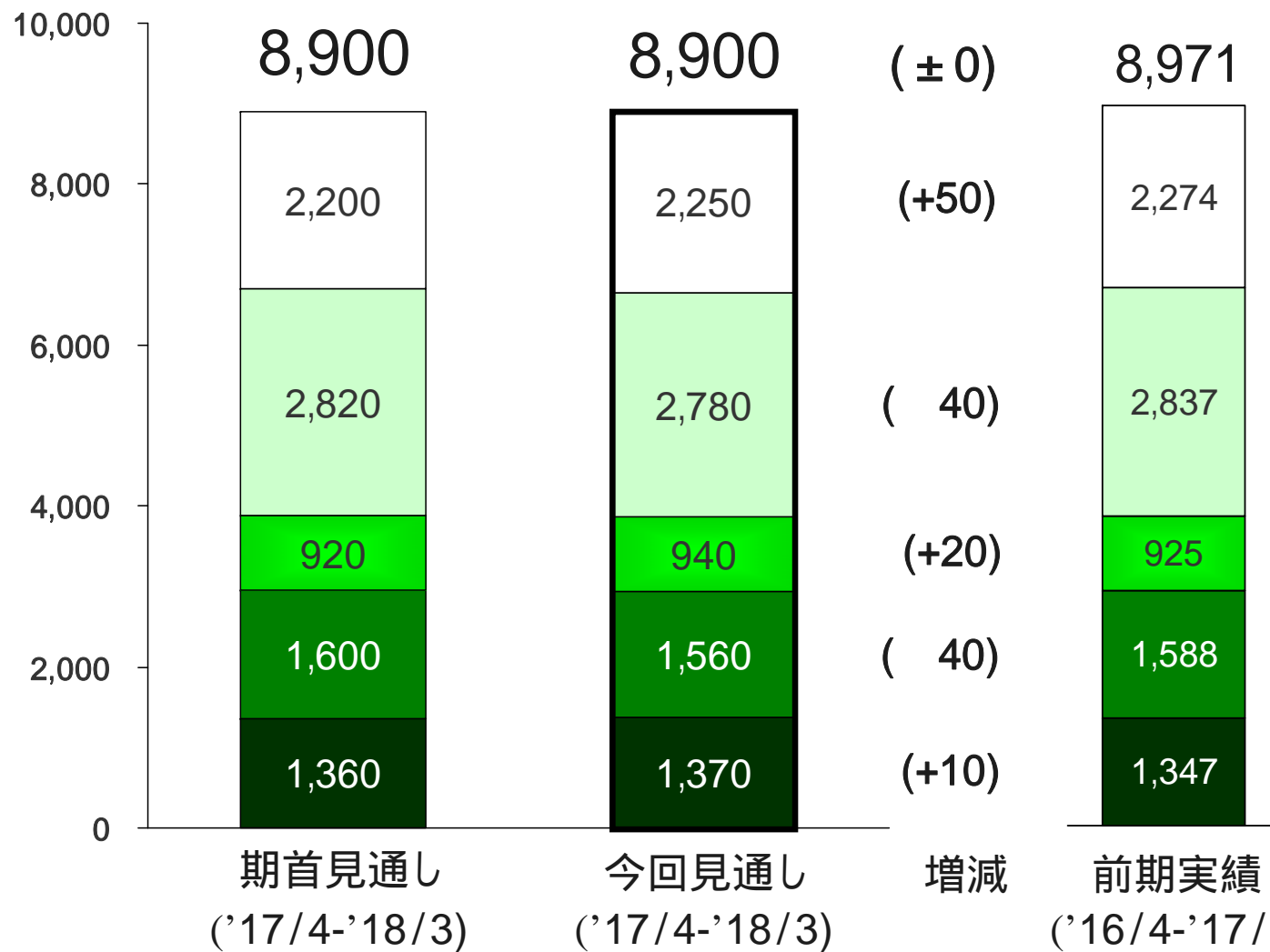
2018年3月期第1四半期 決算説明会

2018年3月期 第1四半期 実績

2018年3月期 見通し

(見通し) 連結販売台数

(単位:千台)



- 日本
 - 北米
 - 欧州
 - アジア
 - その他
- (中南米
オセアニア
アフリカ
中近東など)

グループ 総販売台数(小売)	10,250	10,250	±0	10,251
-------------------	--------	--------	----	--------

(見通し) 連結決算要約

(単位: 億円)

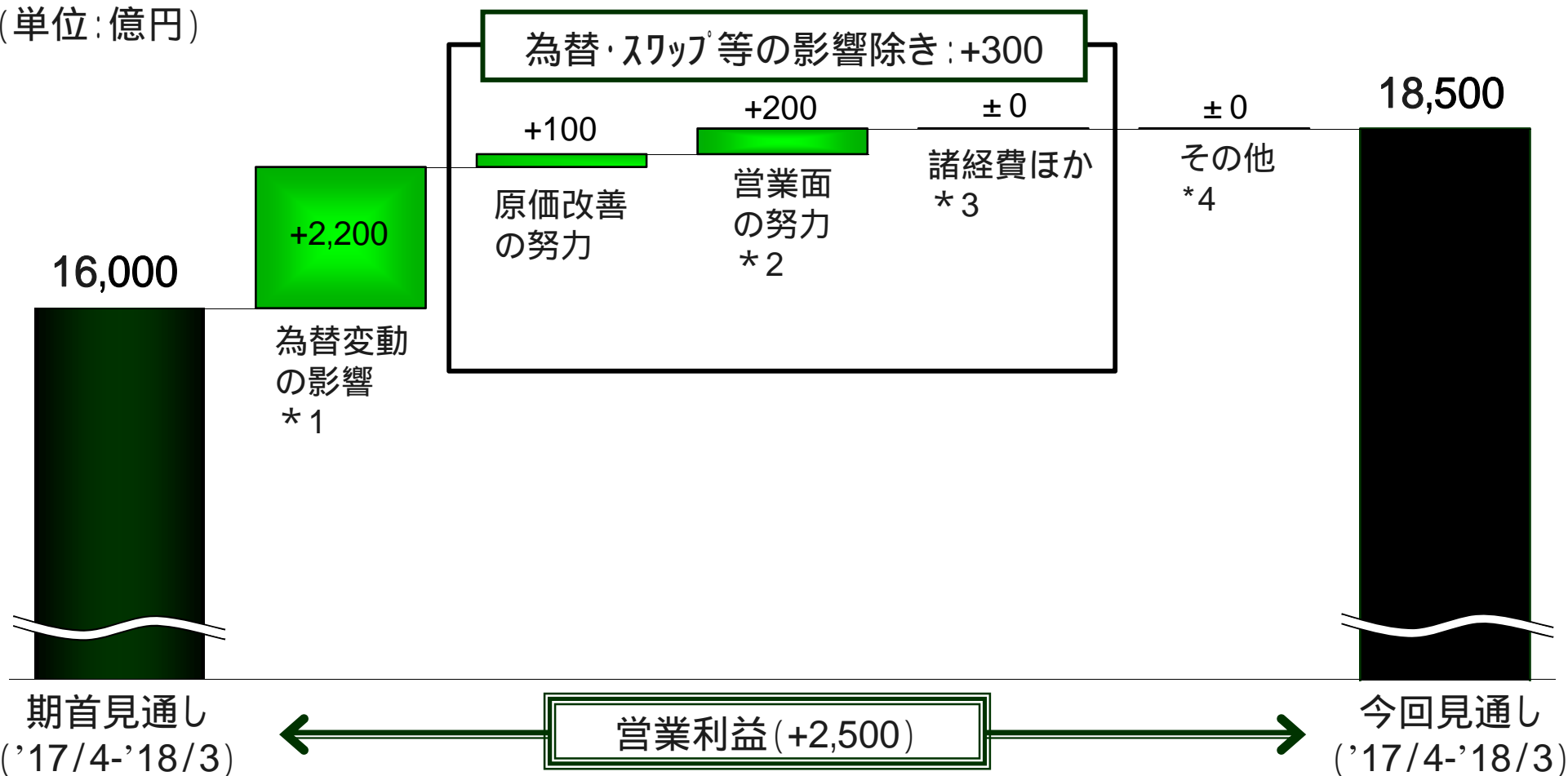
	今回 見通し (’17/4-’18/3)	期首 見通し (’17/4-’18/3)	増減	前期実績 (’16/4-’17/3)
売上高	285,000	275,000	+10,000	275,971
営業利益	18,500	16,000	+2,500	19,943
営業利益率	6.5%	5.8%	-	7.2%
税金等調整前 当期純利益	20,500	18,000	+2,500	21,938
持分法投資損益	3,800	3,500	+300	3,620
当期純利益*1	17,500	15,000	+2,500	18,311
当期純利益率*1	6.1%	5.5%	-	6.6%
為替 レート	米ドル 110円*2	105円	+5円	108円
	ユーロ 124円*2	115円	+9円	119円

*1. 当社株主に帰属する当期純利益

*2. 第1四半期実績：米ドル111円、ユーロ122円、’17年7月以降の前提為替レート：米ドル110円、ユーロ125円

(見通し) 連結営業利益 増減要因 (期首見通し差)

(単位: 億円)



*1.内訳

輸出入等の外貨取引分	+2,650	海外子会社の	
-米ドル	+2,100	営業利益換算差	+100
-ユーロ	+500	その他	550
-その他通貨	+50	(外貨建引当の期末換算差ほか)	

*2.内訳

台数・構成	±0
金融事業	+200
その他	±0

*3.内訳

労務費	100
減価償却費	±0
研究開発費	±0
経費ほか	+100

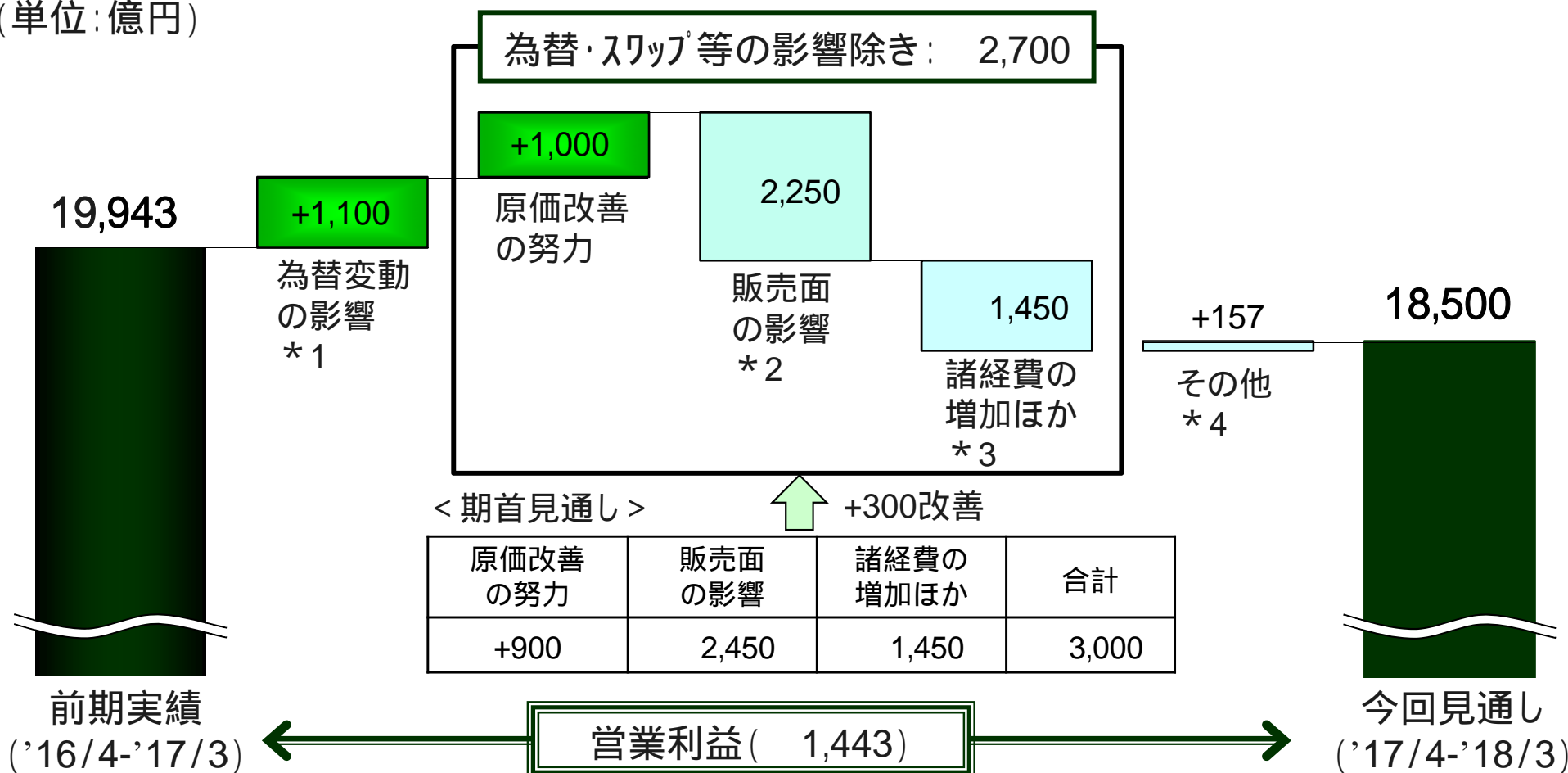
*4.内訳

スワップ評価損益ほか	±0
------------	----

先期末より、「為替変動の影響」に、海外子会社の営業利益換算差や外貨建引当の期末換算差等を含めています。

(見通し) 連結営業利益 増減要因 (前期差)

(単位: 億円)



* 1.内訳		* 2.内訳		* 3.内訳		* 4.内訳	
輸出入等の外貨取引分	+950	海外子会社の		台数・構成	800	労務費	450
-米ドル	+750	営業利益換算差	+100	金融事業	150	減価償却費	550
-ユーロ	+300	その他	+50	その他	1,300	研究開発費	200
-その他通貨	100	(外貨建引当の期末換算差ほか)				経費ほか	250
						スワップ評価損益ほか	+157

先期末より、「為替変動の影響」に、海外子会社の営業利益換算差や外貨建引当の期末換算差等を含めています。

当決算の総括

【第1四半期 実績】

- ・連結販売台数は、221万5千台(前年同期比+4万3千台)。
- ・営業利益は5,742億円(前年同期比 679億円)。
- ・原価改善の努力が増益要因となるも、販売面の影響、諸経費の増加などにより減益。為替・スワップ評価損益等を除く営業利益は前年同期比 250億円。

【通期見通し】

- ・連結販売台数は890万台(前期比 7万1千台)。期首見通しから変更なし。
- ・営業利益は1兆8,500億円(前期比 1,443億円)。期首見通しから2,500億円の上方修正。
- ・通期の為替前提を、米ドル110円、ユーロ124円に変更。
- ・収益改善活動のうち、目途付けできたものを当決算で反映。
原価改善の努力、営業面の努力により、期首見通しより300億円改善するも為替・スワップ評価損益等を除く営業利益は、前期比 2,700億円。
- ・2期連続の減益を回避すべく、収益改善策の更なる積み上げに取り組む。

競争力強化に向けた取り組み

明日を 生き抜く 「攻め」	<ul style="list-style-type: none">・重点分野(自動運転、AI、次世代環境車等)への研究開発リソースシフト・Toyota AI Ventureファンド、未来創生ファンドなどの多様な手段を通じたシーズ段階での技術力確保(M&Aを含む)・初のフルTNGAである新型カムリの増販推進
今日を 生き抜く 「守り」	<ul style="list-style-type: none">・お客様目線での全モデルの商品性の再確認・カンパニー制を活かした即断即決による需給ギャップの早期解消
働き方 改革	<ul style="list-style-type: none">・RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)による定型業務の自動化(レポート作成、問合せ対応等)・TNGAモデルの多拠点連続立上げに向け、国内外工場間で画像とつぶやきをリアルタイムに共有し、早期に課題解決

2018年3月期 第1四半期 決算説明会



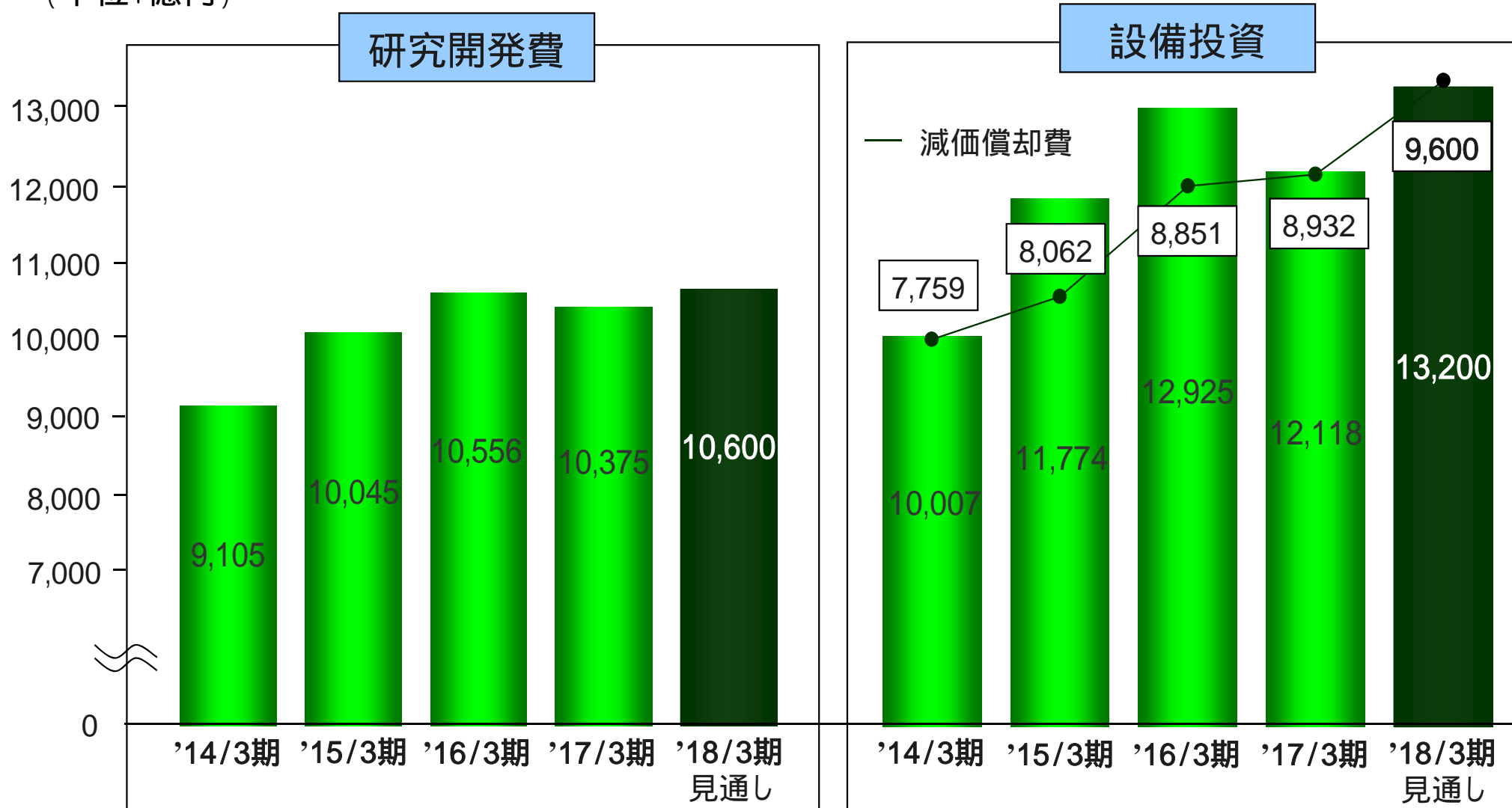
CAMRY

トヨタ自動車株式会社
2017年8月4日

(ご参考)

研究開発費・設備投資・減価償却費

(単位: 億円)



期首見通しからの増減:

研究開発費 + 100億円

設備投資 + 200億円

減価償却費 + 100億円

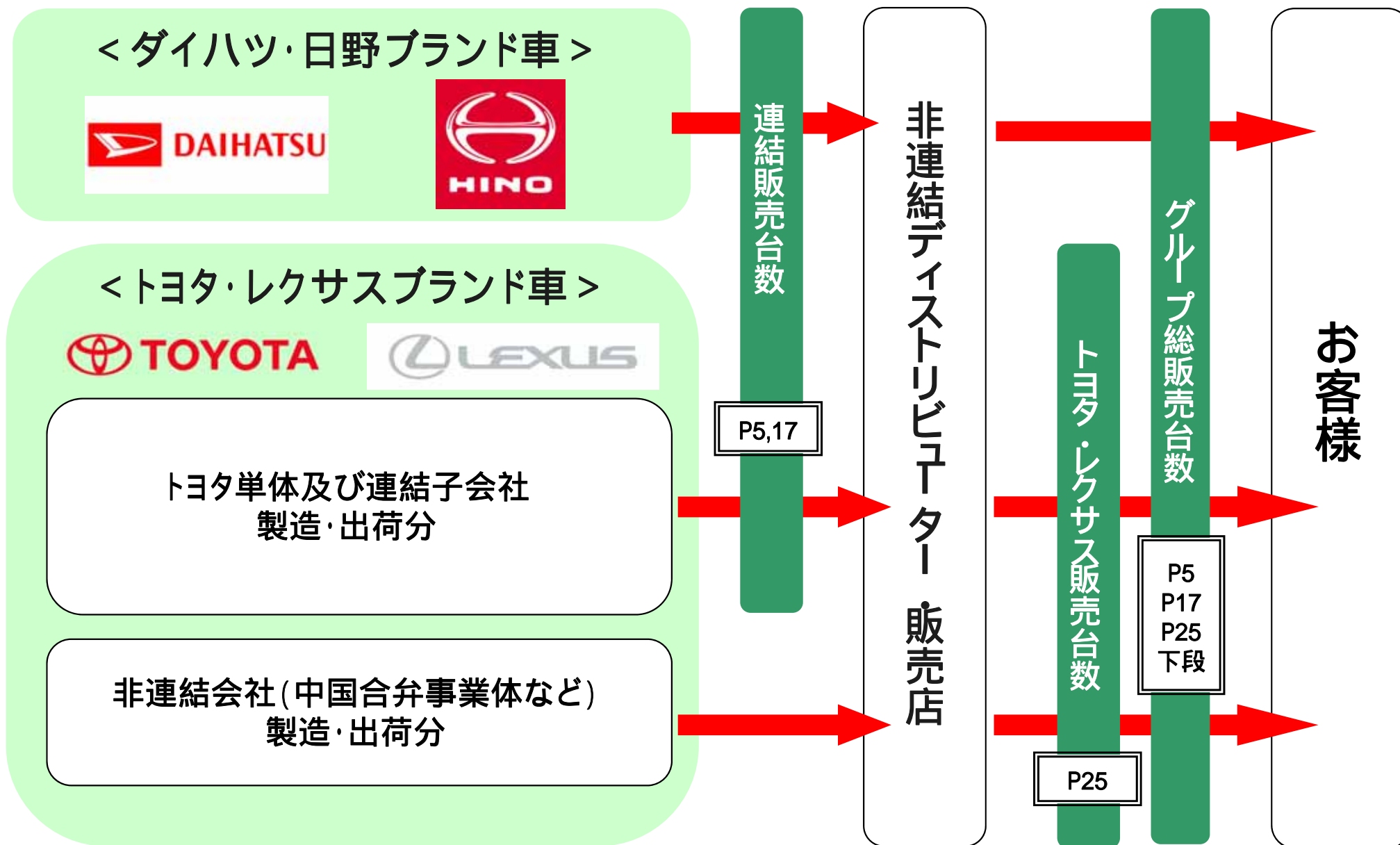
(ご参考) 台数見通し

(単位:千台)

			今回 見通し (’17/4-’18/3)	期首 見通し (’17/4-’18/3)	増減	2017年暦年 修正計画 (’17/1-12) 内:期首計画差
トヨタ レクサス	生産 *1	国内	3,180	3,150	+ 30	3,190 20
		海外	5,720	5,750	30	5,780 + 10
		合計	8,900	8,900	± 0	8,970 10
	販売 (小売) *2	国内	1,580	1,550	+ 30	1,610 + 10
		海外	7,720	7,750	30	7,650 20
		合計	9,300	9,300	± 0	9,260 ± 0
	輸出		1,800	1,800	± 0	-
グループ総販売(小売)*2 …ダイハツ、日野プラント含む		10,250	10,250	± 0	10,252 + 50	

* 1 . 非連結会社による生産台数を含む * 2 . 非連結会社による販売台数を含む

(ご参考) 販売台数について



* 一部例外的に、上記フローに当てはまらないケース有り